

< 特別寄稿 >

正山征洋先生のご厚意で所蔵されている「ボタニカルアート」の一部を紹介していただく事になりました。大変貴重で興味深く、芸術性も高い作品に加え先生自ら解説されています。

ボタニカルアート

九州大学名誉教授・長崎国際大学名誉教授

正山征洋先生



第7回

ムラサキバレンギク（エキナケア）

ムラサキバレンギクはエキナケアとも呼ばれます。

学名は*Echinacea purpurea* L.でキク科に属する北アメリカ原産の多年生草本です。



エキナケアは学名の属名から名付けられました。

草丈は1 m前後まで伸びて、葉は互生で細長く表面には毛が多く、ザラザラして先が尖っています。6月頃から夏にかけて茎の先に赤紫からピンクの花を開きます。開花期が過ぎた頭花は太く長くなりますので、熟したトウモロコシに似ていることから、英名でパープルコーンフラワーと呼ばれます。

ムラサキバレンギクはアメリカの先住民が民間薬として風邪、歯痛、のどの痛み等に用いてきました。アメリカでは19世紀に入って近代的な医療に組み込まれ、風邪の予防等に用いられました。

その後ヨーロッパに渡り、主としてドイツで研究が進み、免疫系を高めるため感染症や風邪に有効かつ安全性の高い生薬であることが明らかになりました。現在はドイツで医薬品となっていて、又、サプリメントとして世界で広く用いられています。